

ブックスタート運動の現状と評価

07L4228 伊澤貴宏

1. ブックスタート運動について

ブックスタート運動とは生まれたばかりの赤ちゃんに本を渡し、絵本に触れるきっかけを作るとともに、家庭での読み聞かせのきっかけをつくる運動である。「子ども読書年推進会議」で取り上げられスタートした。具体的には、市町村自治体が 0 歳児検診の際などに、赤ちゃん(保護者) に絵本を渡すもので、現在全国 1750 の自治体のうち 751 の自治体で実施されている。本の推薦やスタートパックの用意などの支援活動は、NPO ブックスタートがおこなっている。下の写真はスタートパックの例と読み聞かせの様子である。



神奈川県平塚市図書館



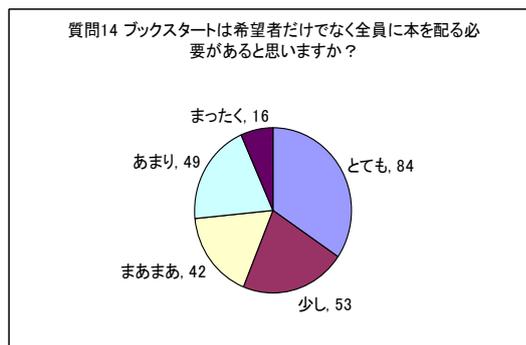
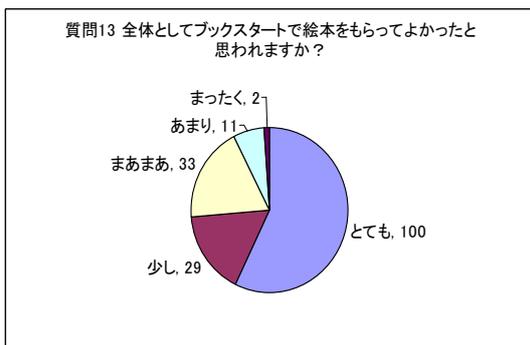
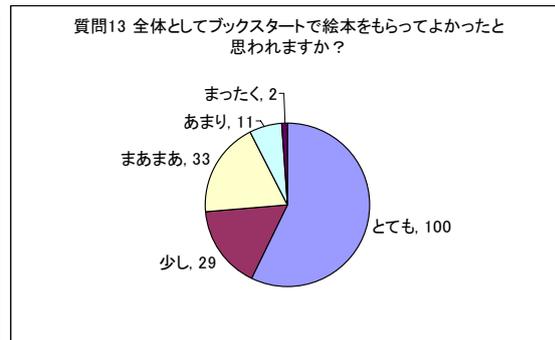
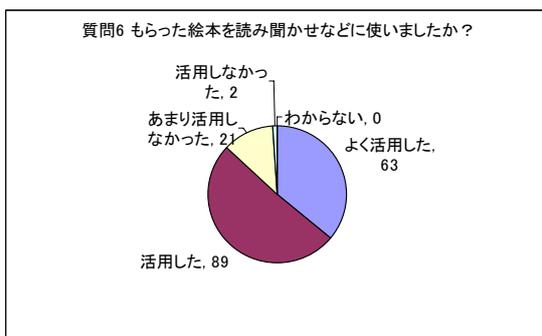
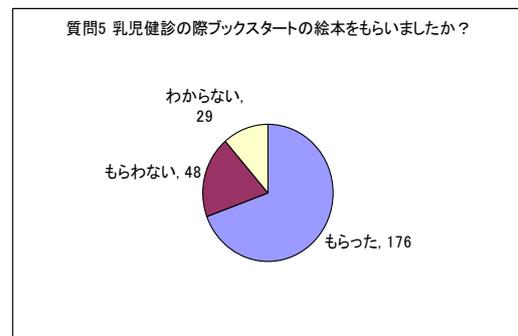
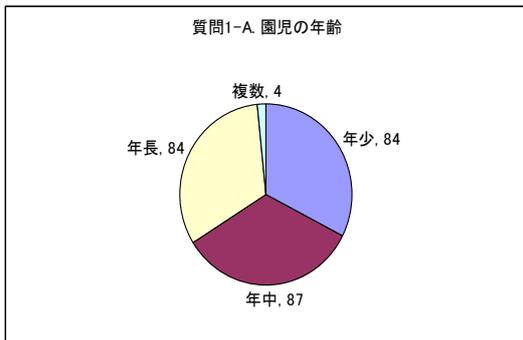
兵庫県神崎郡市川町図書館ホームページより

2. 愛知県におけるブックスタート活動

愛知県では全自治体 61 のうち 34 が実施している。豊橋の場合、4 ヶ月検診時におこない、平成 21 年の対象幼児は 3650 人、予算は 438 万円である。

3. 調査

愛知県豊橋市の 2 つの幼稚園に通う児童の保護者に対してブックスタート運動に関するアンケート調査を行った。配布数 340、回答数 253(74%)であった。以下主な回答結果を示した。



4. 考察

今回のアンケート調査の結果としてブックスタートで絵本をもらった家庭のうちその絵本を活用している家庭が約 77%もありブックスタートの効果は十分にあるということがいえる。また絵本をもらってよかったと答えている家庭も多かったことからブックスタート運動に対して肯定的な意見をもった家庭が多いことがいえる。